

ねりまの文化財

東京文化財ウィーク参加事業

「石神井城フォーラム二〇〇一」を開催!

石神井城と自然をふるさとねりまの誇りに 11月10日(土)

今年で四回目の開催となる「石神井城フォーラム」。今年も、都内の文化財を一斉に公開する「東京文化財ウィーク」の参加事業として実施します。

さわやかな秋の一日、ご家族やお友達と一緒に、ぜひお出かけください。

▼とき 11月10日(土)
午前10時30分～午後3時
(雨天中止)

▼ところ 石神井公園内 石神井城跡
▼内容

◆石神井城跡発掘現場の公開

石神井城の中心部分にどんな施設があったのかを明らかにするための学術発掘調査が区民の手により、11月2日～9日に行われます。その発掘現場を

公開し、出土品を展示します。

◆展示会

○「ねりまの文化財探訪」

区民ボランティアにより、区内の文化財をパネル展示で紹介いたします。

◆区民の郷土研究発表会

日頃から練馬区の郷土研究をされている方々による発表会です。

▼発表者

①新井まさし氏 午前11時～

「漫談で語る練馬大根の話」

②葛城明彦氏 午前11時30分～

「伝説から読み解く豊島氏の滅亡」

③中山幸一氏 正午～

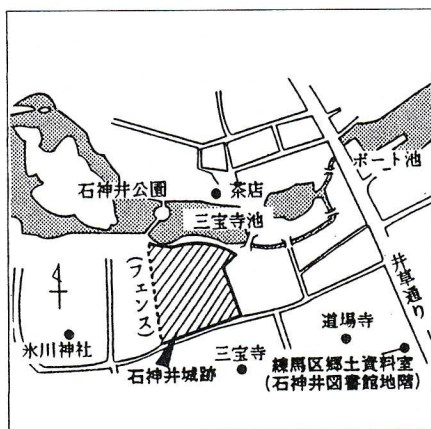
「板碑にみる練馬区・石神井川流域の歴史所見」

▼会場は、城跡フェンス前・特設会場です。椅子席をご希望の方は、11月9日(金)までに電話で文化財係にお申し込み下さい。

◆ファミリー広場

○鎌倉時代、石神井地域と関わりをもったといわれる豊島三郎入道とその妻・土用熊(とよくま)。その二人に扮して記念写真が撮れる場所を設けます。カメラは皆さんでご用意下さい。○子ども向けの歴史クイズコーナーもあります。

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
☎3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1



会場案内図

練馬区伝統工芸展



アトリウムでの展示(昨年度)

今年の練馬区伝統工芸展は、11月2日(金)から4日(日)まで、区役所アトリウム地下多目的会議室などで開催されます。区内伝統工芸の力作を展示するほか、制作の実演、体験や相談コーナーなども設けます。

多くの方のご来場をお待ちしております。

▼とき 11月2日(金)～4日(日)

午前10時から午後5時まで、

4日は午後4時まで

▼詳細 10月21日号ねりま区報をご覧ください

▼主催 練馬区伝統工芸会・練馬区・練馬区教育委員会

▼問合せ 区役所内産業課商工係へ

東京文化財ウィーク期間中に 公開される区内文化財のご案内

11月1日から7日は「文化財保護強調週間」です。文化庁が主唱するこの文化財保護強調週間は、昭和29年、国民一人一人が文化財を国民共有の財産として愛護するよう、様々な行事や広報活動を推進するために定められました。

東京都では平成10年度から、文化財に親しむ機会を皆さんに提供することを目的に、都内の文化財を集中的に公開する「東京文化財ウィーク」を強調週間の行事として行っています。

今年11月3日から11日までの9日間を、文化財を公開する期間としています。また、10・11月には、文化財ウィーク企画事業として、講演会など様々な文化財保護事業が行われます。

練馬区内では、国指定の天然記念物の「練馬白山神社の大ケヤキ」をはじめ、次の六件の文化財が公開されます。普段から見学できるものもありますが、公開期間中は、場所を示すのぼりが立てられ、解説カードも用意されますので、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。

◎なお、文化財を訪れる際は、所有者や周囲の迷惑とならないよう注意しましょう。

●練馬白山神社の大ケヤキ

(国指定天然記念物)

白山神社の拝殿前と階段下に二株あります。源義家が一〇八三年に東北方面の征伐の戦勝祈願をした時に苗木が奉納されたと言えられています。

〔所在地〕練馬四一二 白山神社境内
〔交通〕豊島園駅

(西武池袋線・都営大江戸線)
下車、徒歩五分

〔公開時間〕午前九時～午後五時

●小野蘭山墓(東京都指定旧跡)

小野蘭山(一七二九―一八一〇)は江戸中期に活躍した本草学者(博物学)で、江戸の医学館での講義を弟子がまとめた『本草綱目啓蒙』四八巻は、我が国では最大の本草学の文献といわれます。墓所は関東大震災後、西浅草から移転してきました。

〔所在地〕練馬四一二七 迎接院墓地内
(十一ヶ寺墓地)

〔交通〕豊島園駅

(西武池袋線・都営大江戸線)
下車徒歩三分

〔公開時間〕午前九時～午後四時三〇分

●池永道雲墓(東京都指定旧跡)

池永道雲(一六六五―一七三七?)は幼い頃から書道を学び、中国の黄道謙などの影響を受けて篆刻の大家となりました。代表的な著書には『篆海』(篆書辞典)などがあります。墓所は関東大震災後、西浅草から移転してきました。

〔所在地〕練馬四一二七 受用院墓地内
(十一ヶ寺墓地)

〔交通〕豊島園駅
(西武池袋線・都営大江戸線)
下車徒歩三分

〔公開時間〕午前九時～午後四時三〇分

●尾崎遺跡(東京都指定史跡)

出土品は区指定有形文化財) 区立春日小学校の建設にあたって、昭和五四・五五年に発掘調査された旧石器時代から近世までの複合遺跡です。春日小学校のグラウンドが指定範囲となっています。ナイフ形石器や縄文土器、中近世の陶磁器などの出土品が校内の展示室でご覧になれます。

〔所在地〕春日町五一二―一 春日小学校内

〔交通〕練馬春日町駅(都営大江戸線)
下車、徒歩八分

〔公開時間〕

11月3日(土) 午前10時～午後4時
11月10日(土) 午後1時～午後4時
11月11日(日) 午前10時～午後4時

〔尾崎遺跡出土品解説会〕

11月11日には、午前10時30分から午後2時まで、解説員がいます。
※必ず学校受付にお申し出ください。

●石神井城跡及び三宝寺池

(東京都指定旧跡)

石神井公園内の三宝寺池周辺は史跡や自然の豊かなところ。三宝寺池は武蔵野三大湧水の一つで、かつては湧き水が豊富で、石神井川の源流にもなっていました。その南側の台地に、石神井城跡があります。中世にこのあたりを支配していた豊島氏の城で、太田道灌に攻められ、一四七七年に落城しています。城の中心と考えられている部分には、土塁や堀がよく残されています。

〔所在地〕石神井台一丁目ほか
都立石神井公園内

〔交通〕石神井公園駅(西武池袋線)
下車、徒歩一〇分

●三宝寺池沼沢植物群落

(国指定天然記念物)

三宝寺池の中央、「中の島」周辺が指定範囲となっています。コウホネなどの水生植物を中心に、貴重な植物相がみられます。水質の悪化などにより、絶滅してしまった植物もありますが、保護への取り組みが続けられています。
(所在地などは右記に同じ)

石神井城跡から出土した小刀について

昨年、石神井城跡発掘調査の際、土塁内側基底部より、小刀と思われる鉄器が出土しました。これについては「ねりまの文化財」第五〇号で一部報告されておりましたが、先日、現物を拝鑑する機会を得ましたのでいくつ私見を述べてみたいと思います。尚、関連の資料等乏しく不明な点もある為、想像たくましく推察している所もあります事を予め、お断りしておきます。

まず、この小刀？の出土時には全体が厚い錆で覆われていたが、可能な限り錆を除き、保存処理をした結果、凶の様にいくらか、その形を確認する事が出来た。これに依ると、刀身部と、茎(柄)部とが、はっきりと判別する事が出来、茎部には、やや反りが付き目釘孔とおぼしき孔はない。刀身部にも僅かに反りが付き、刃区上二、四cm位の所から先が切刃になっているか見え、その先から先端にかけて約半分位の所で欠損している。次に現状に於ける法量を掲げ、その概要を記してみる。(単位センチメートル)

- 総長 一六・〇 刃長 七・五・
- 反り 〇・二 元幅 一・五
- 茎長 八・五 茎反り 〇・一
- 目釘孔 ナシ

更に、それぞれの寸法に従って、刀身部の欠損箇所を推察してみると、おおよそ、総長二四〜五cm、刃長一五〜一七cm位となり総じて、大振りな小刀となる。勿論小刀の寸法については特に定められてはならず、刃長二〇cm前後のもので、いわゆる大小刀と称するものを見る事もあるが、通常、刀装具として我々が眼に

触れる小刀の平均的な寸法は刃長一二〜三cm、茎長七〜八cmとなる。これは刀の鞘に櫃と云われる、小柄や笄を収納する所があり、それに従う結果であろうかと思われる。当然この場合には、小刀の茎に金属で出来た裝飾性を帯びた柄をはめ込み、いわゆる小柄として、その役を果たす訳である。当該の小刀の出土時には、周囲にその様な、金属性の附属物は発見されていないとの事なので、おそらく、木製の柄であったのではないかと考えられる。その場合は、むしろ日用品として、今日で云う所のナイフや切出しの様な、使われかたが考えられる。事実、関の刀匠達からは昔僧侶の人達が(多分手紙をしたためたりした時などの紙切り用として)紙と大小刀を注文していた事なども聞いている。又昔の大工職の人達も道具の中に大小刀が用意されていた様な事も

聞き及んでいる。いずれの物も切刃になっていて、想像をたくましくすれば、今回出土の小刀と相通する点が考察される。次に制作された時期であるが、出土した場所が土塁築造時の所なので、石神井城が落成した文明九年(一四七七年)四月以前である事は確実で、歴史学で云う室町時代中期にあたる訳です。

余談になりますが、ここで云う小柄・小刀の歴史は古く、それをたどると奈良時代の刀子に迄遡る事になるが、それは若干、様式が異なり、むしろ南北朝時代に見かける外装の鞘に、前述した櫃を見る事によって、その存在を知る事が出来るが、現在そこに収納されているべき当時の小柄・笄のほとんどが欠失しており、私自身未だ実見していない。更に日用品として日常的に使用される場合だと、その消耗の度合い等、考慮すれば、恐らく出土場所に何らかの意図をもって遺棄された、約一〇年前後の頃かと推察される。

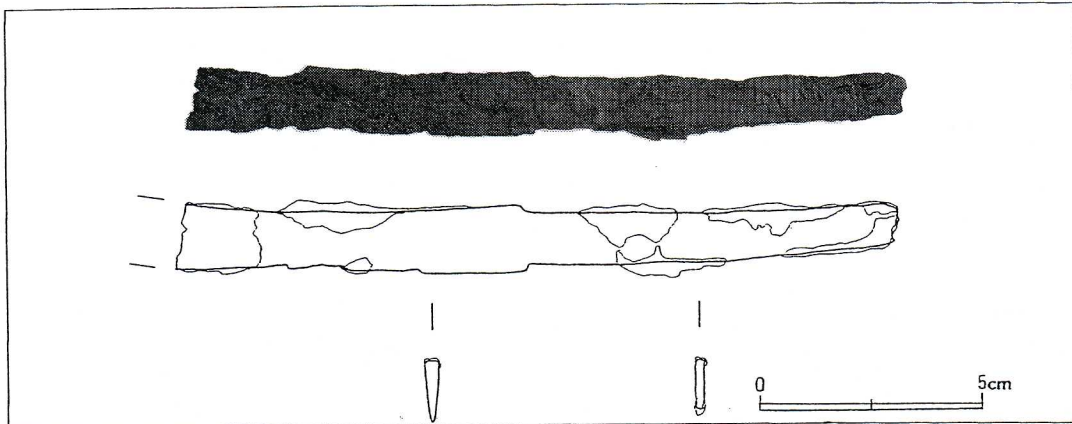
以上をもって、石神井城跡より出土した小刀は、刀装具(武具)として用いられたとは考え難く、又、その製作時期については、石神井城築造の時期が不明なのでつまびらかにはなりません。が、室町前期に迄は遡らないだろうと思われ。尚、今後の課題としては同じような小刀が八王子城跡、葛西城跡にても出土して

いるとの事なので、それらとの比較も興味深いものと思います。

平成13年9月10日

練馬区文化財保護推進員

工藤昌利 記



昨年度、石神井城跡から出土した小刀の写真と実測図

郷土資料室 特別展

「練馬の商品作物と漬物 ―江戸・東京の台所をささえた特産物―」

開催中！

巨大都市江戸・東京の食卓で消費される野菜の生産地として練馬は発展してきました。全国的に有名な「練馬大根」や「中の宮ごぼう」など、区内の地名をとって命名された根菜が特産物として篤農家によって精力的に生み出され、盛んに生産されました。

このうち、大根は練馬で漬物に加工され、沢庵漬として江戸・東京の食卓に色を添えました。

また、特産物の種子を専門的に生産する種子屋が練馬でも誕生し、練馬で生まれた野菜は遠方にも波及していくようになりました。

このように、練馬の商品作物と漬物は江戸・東京の食文化を支えました。今回の展示では、大根取り入れに関する絵馬、戦前の野菜図、沢庵漬製造に使用された用具、種子屋のカタログなど、様々な資料から練馬の商品作物と漬物について紹介しています。是非、お越し下さい。

▽場所 練馬区郷土資料室

(石神井台一―一六―三一)

石神井図書館地階

☎三九九六一〇五六三

▽とき 10月13日(土)～12月14日(金)

午前9時から午後5時まで

(月曜日・10月26日(金)・11月22日(木)は休室)

※板橋区立郷土資料館(板橋区赤塚五―三五―二五 ☎五九九八―〇〇八一)で関連展示「江戸・東京の四季菜」を開催しています。

10月13日(土)～12月2日(日) ※期間中、農業に関する次の催しが開催され、区内の現在の農産物をご覧いただけます。

○練馬区農産物品評会
開催日：11月10日(土)
場 所：石神井区民館展示室

○JA東京あおば農業祭り
開催日：11月17・18日(土・日)
場 所：夏の雲公園 (光が丘三一五)

詳しくは、都市農業係にお問い合わせ下さい。(☎三九九五―一―一〇八)



芸術鑑賞会特別企画

練馬郷土芸能 ねりま座

○日時 12月9日(日)

開場：午後1時30分

開演：午後2時(4時まで)

○場所 練馬公民館 ホール

○内容 【祭り囃子】

中村囃子(大間/付随芸能なし)
(練馬区登録無形民俗文化財)
石神井台囃子(早間/寿獅子)
【農村歌舞伎】
「青砥稲花紅彩画」
浜松屋見世先の場

奈倉女歌舞伎

(埼玉県秩父郡小鹿野町)

○定員 三〇〇名

○参観料 無料

○申込み 往復ハガキに

①郷土芸能「ねりま座」

②住所 ③氏名 ④年齢

⑤希望人数(一枚に二名まで)

を記入のうえ、11月25日(日)

(必着)までに練馬公民館へ

○問合せ・申込先 練馬公民館

☎一七六一〇〇一二

豊玉北六一八一

☎三九九一―一六六七

石造物を移設しました

田柄四丁目三五番に立っていた「馬頭観音道しるべ」と「庚申塔」(『練馬の石造物―路傍編その一―』七五頁)を6月22日、区立石神井図書館の庭に移設しました。宅地開発により現状保存が困難となり、区に寄贈されたための保存措置です。「馬頭観音道しるべ」は享和三年(一八〇三)銘、角柱型文字馬頭観音で側面には「ねのごんげん道」、「こぐれ道」と刻まれています。もとあった場所の前の道路は貫井にあった子の権現(円光院)へ、西は小樽村(現大泉町周辺)への道(廃道)でした。台石には建立者名が刻まれていました。移設の際発掘をしましたが、何も埋設されていませんでした。「庚申塔」は享保五年(一七二〇)銘で、昭和一八年、成増飛行場の建設により現光が丘一丁目に立っていたものを馬頭観音の脇に移設していたものです。

